

平成十八（二〇〇六）年度

## 日本及び東洋美術の調査研究報告

中谷伸生  
伊藤香

日本東洋美術調査研究班

### 日本及び東洋美術の調査研究について

〈論文・資料紹介等〉

Ⅰ家所蔵の月岡雪鼎筆「十二月月図屏風」

― 月岡雪鼎と工房制作をめぐる問題 ―

久保田桃水筆「嵐山春景梅尾秋色図」

― 師西山芳園からの図様の継承 ―

大阪の文人画家・矢野橋村

― 『青飛白走帖』に見られる東アジアの文人趣味 ―

伊藤香

柴田就平

中谷伸生

十年間にわたる「妙心寺の建築及び障壁画の調査研究報告」は、元関西大学工学部の永井規男先生（建築史）、元関西大学文学部の山岡泰造先生（美術史）の両名がご退職となったことで、一応の区切りとなり、前号の「永井規男先生古希記念号」をもって終了した。今号からは「日本及び東洋美術の調査研究報告」と題して、前号までの方針と精神を引き継ぎながら、新たに調査報告を行うものである。今回は関西大学文学部の中谷伸生（美術史）、同非常勤講師の伊藤香（美術史）、日本東洋美術調査研究班に所属する芸術学美術史研究室の大学院生柴田就平が参加した。再三の調査をお許しいただいた所蔵家の皆様に心から感謝を申し上げます。